



秋野 早速ですが、開業されるまでの院長のご経歴からお聞かせ願えますか。

深森 徳島大学医学部を卒業後、平成九年四月に神戸大学医学部附属病院にて勤務医を務めました。その後兵庫県立成人病センター、神戸労災病院、市立加西病院の眼科でそれぞれ勤務し、公立宍粟総合病院の眼科医長を経て、平成十九年十一月に当院を開院致しました。

秋野 眼科を選ばれた理由とは。

深森 当初は脳神経外科を志していました。が、体力的に非常にハードな分野でしたので同じ顕微鏡を用いた手術を行なう眼科に転向しました。眼科での白内障や緑内障の手術も脳神経外科と同じように顕微鏡を用いるのです。目が見える、見えないうつて人の心は多大な影響を受け、手術によってよく見えるようになると人は生まれ変わったみたいになれます。そういった患者さんをたくさん見てきた中で、今では眼科を選んで良かったと非常にやり甲斐を感じるようになりました。

秋野 こちらの医院は高台に位置していて景色が大変素晴らしい。駅から徒歩二分と

いう交通の便も良いですね。

深森 私自身は西宮市出身ですが、物件を探す前から漠然と海が見える所での開業を考えていました。当地は一番最初にお話を頂いた場所で、この辺りには眼科がないことや希望通り海が見えること、また明石海峡大橋も一望できますし、仕事の後先に景色を眺めながら和やかな気持ちになれるのでとても気に入っています(笑)。

秋野 独立は最初から考えておられたのでしょうか。

深森 そうですね。ただ、勤務医として経験を積むことも大切だと考え、最低でも十年は頑張ろうと思っていました。そして少しずつ自信も付いて、自分なりの診療スタイルも構築できたと思った時に自然と独立を考へるようになり、眼科医として自分らしい治療にもっと磨きを掛けたいと開業の道を選択しました。

秋野 「期は熟せり」といったところでしょ。うか。ところで院内は床がフローリングになっていて、壁や家具もピンク基調ととても明るくてゆったりとしていますね。

深森 医学生の際に眼科を見学したことがありました。そのほとんどは狭くて暗いイメージが強かったので、自分が開業する時は広くて明るい医院にしようとずっと考えていました。内装は設計士をしている高校時代の友人にお願いし、癒しの空間をつくることで来院された方の不安を少しでも和らげるよう配慮しています。

秋野 治療におけるモットーについても教えて下さい。

深森 明るくて温かいクリニックのイメージ

ジを大切にすることです。私もスタッフも笑顔で忘れず、常に患者さんの立場に立つて接するよう心掛けています。診療内容はものもらいや結膜炎、最近ではドライアイや眼精疲労の治療が多いです。ちなみに「三つのコン」と言っています。パソコン、コンタクトレンズ、エアコンがドライアイの原因となっているのです。また、目薬の処方やレーザー治療も行っており、白内障や緑

内障などの手術は

近くの大森病院を紹介させて頂いています。もちろん眼鏡やコンタクトレンズの処方も行なっています。

秋野 さて、お話の締めには今後の展望についてお聞かせ願下さい。

深森 手術の経験もたくさん積んできましたが、独立の一番の目的は病気になる前の「予防」です。最近では目薬も非常に良くなっている。緑内障なども早期であれば手術せず済むケースも増えています。地域の方々に自分の眼の状態をよく知って頂き、必要で

あればできるだけ早く治療を受けて頂きたいです。そして患者さん、スタッフ、私も含めて皆が幸せになれる医院にしていきたいと願っています。目薬と一緒に元気を皆様提供していきたいです(笑)。

秋野 眼もやはり早期発見・早期治療が大切ですね。これからはますますのご尽力を続けて下さい。本日はありがとうございます。

①INFORMATION

パステルピンクと木目を基調とした明るく温かい雰囲気の内

